

「西安交通大学サマースクール参加報告書」

京都大学大学院工学研究科都市社会専攻 1 回生 根津佳樹

今回のサマースクールに参加するまで海外に渡航した経験は1度しかなかったもので、不安もありましたが、今回参加してみて新鮮な経験を積むことができました。私が中国に行くのは初めてで、昨年参加された人の話を聞いた限りでは、デモがあったりと正直これまであまりいいイメージを持っていませんでした。実際行ってみて、空気はかすんでいるし、交通マナーはあまり良くないといったこともありました。しかしながら、これまでのイメージが一変したわけではありませんが、実際に現地の中国の学生と交流し、文化、歴史について学習、体験する中で、少しずつ理解を深められたのではないかと感じました。とりわけ、中国の学生の日本語の習得ぶりには驚かされました。こちらが片言の中国語すらままならない中、日本語で、積極的に話しかけてくれ、食事に誘ってくれ、様々な西安の名所旧跡を案内してもらいました。その中で、中国と日本の違いに触れることが多くあり、自分の全く知らず、想像もつかないような世界に驚かされました。特に見学した中では楊貴妃の劇や、兵馬俑の博物館では、中国のスケールの大きさに圧倒され、感動しました。これほどの規模の遺跡や施設は日本ではなかなか見られず、短い期間ではありましたが、本当に貴重な体験をすることができました。今回の経験で学んだことは、現地での体験もありますが、まず実際に自分の目で見てみるということがいかに大切であるか、ということでした。世間一般には中国という国に対し、あまりいい報道はなされていませんが、もともと外国である以上日本との違いは善悪両面あることは当然だと思います。それらを自分の目で見、感じ、体験する中で相手に対する理解が進むものだとし強く感じました。また、そのためには相手の言語をそれなりに話せることが必要条件だとも感じました。今回の反省点であります、中国で日本語で説明をしてもらうのはどこか申し訳ないというか、相手に対しやや無礼なようにも感じました。こちらから学びに行っているのだから、もう少し事前に相手の母国語を身につけておければ、と感じました。今後も海外含め、自分自身で様々な現場へ行き、自分の肌で感じていきたいと思うのですが、それに合わせて今後も語学を学習することが大切であると感じました。

また、まもなく就職活動期に入りますが、今回の経験は将来の自分の進路にも少なからず影響を与えたいと思います。自分にはやや排他的というかこれまであまり海外とかかわりのある業種・企業は考えていなかったのですが、ある程度お互いの理解ができる範囲内においては他国とも交流するのは重要なことに感じました。今後、幅広い視点で自分の進路を探していくことができればと思いました。

今回、このような貴重な体験をする機会を設けていただき、ありがとうございました。また今後も機会に巡り合いましたら、参加したいと思います。